

# 第1回藤沢市都市農業振興基本計画策定協議会 書面表決結果報告書

令和3年度第1回藤沢市都市農業振興基本計画策定協議会（書面表決）の結果について、次のとおり報告します。

1. 委員数：9人，回答者：9人，未回答：0人
2. 議案  
第1号議案 役員の選出について 賛成9人，反対0人，無効0人  
第2号議案 藤沢市都市農業振興基本計画の策定について
3. 結果  
第1号議案について，過半数の賛成をもって可決されました。  
第2号議案については，いただいたご意見を可能な限り「藤沢市都市農業振興基本計画（案）」に反映し，改めて提案させていただきます。

<第2号議案に対する意見等について>

第1章 計画策定の基本的な考え方

○「1 計画策定の趣旨」について（P 1）

【齋藤委員】

ウイズコロナ、アフターコロナ、SDGs、みどりの食料システム戦略、デジタルトランスフォーメーションなど本文の中に、新しい横文字が増えています。よく聞く言葉ですが農業とどのような関連性があるのか具体的な表現がないので疑問が残ります。

○「2 計画の位置付け」について（P 2）

意見等なし

○「3 計画の期間」について（P 3）

【須田委員】

5年でいいのではないのでしょうか。

○「4 都市農業の定義」について（P 3）

意見等なし

## 第2章都市農業を取り巻く環境

### ○「1 都市農業の現状」について（P 4）

#### 【齋藤委員】

中段、都市農業のから経営内容の説明になっていますが、この部分は農水省の都市農業振興基本計画、都市農業の現状についてから抜粋しているようですがこの数字は平成 23 年都市農業実態調査の数字で資料としては古すぎる。直近の新しい統計数字を入れるべきだと思います。

### ○「2 都市農業の転換期」について（P 4）

意見等なし

### ○「3 都市農地政策の経緯」について（P 5）

#### 【齋藤委員】

優良農地を主体とした、とありますがこれは農業振興地域の中で農業的な土地利用を図る土地として藤沢市の農業振興地域整備計画の中で位置づけられた農用地だと思いますが用語の解説が必要です。

### ○「4 都市農業振興基本計画」について（P 6）

意見等なし

### ○「5 都市農業の多様な機能」について（P 6）

意見等なし

## ○第3章藤沢市の農業

### 「1 藤沢市の農業・農地の役割」について（P 8）

#### 【齋藤委員】

今回の藤沢市の農業、農地の役割では農家の現状の表現が不足している。やはり、農家所得の低迷や後継者不足、高齢化など厳しい現状表現を入れるべき

### ○「2 藤沢市の農業の現状（1）土地の利用状況」について（P 8）

意見等なし

○「2 藤沢市の農業の現状（2）担い手の現状」について（P 9）

**【齋藤委員】**

藤沢市の担い手不足の解消に新規就農や援農ボランティア、農副連携推進事業などで取り組んでいます。農家後継者対策をいかに進めるか、対策としてどのようなものがあるのか検討していただきたい。

**【寺師委員】**

援農ボランティアをされている方は、シルバー世代の方が多く感じているが、年齢的に引退されている方もそれなりにいるように思います。累計では実働が見えません。

○「2 藤沢市の農業の現状（3）農地の状況」について（P 11）

**【齋藤委員】**

令和2年度の農林業センサスの確定数字を入れるようですが、藤沢市の農業、生産面での1戸当たりの耕地面積、売り上げ100万未満何割を記入してほしい。

**【湯澤委員】**

本計画の中で、山林を踏まえた考え方はできないか？

**【須田委員】**

令和2年度の経営耕地面積は？

○「2 藤沢市の農業の現状（4）市民の農業への理解醸成」について（P 11）

意見等なし

○「3 これまでの主な取組（1）農産物を供給する機能を発揮するための取組」について（P 12）

**【和田（早）委員】**

以前に野菜を出荷しても箱代がでないと聞いたことがあります。このような事がないためにも安定した野菜の価格と箱（ダンボール箱）の補助は必要だと思います。

**【須田委員】**

H29～H30にかけて、レンタルコンテナの数が半減したのはなぜですか？

○「3 これまでの主な取組（2）防災の機能を発揮するための取組」について（P 13）

意見等なし

- 「3 これまでの主な取組(3)良好な景観形成機能を発揮するための取組」について(P13)

意見等なし

- 「3 これまでの主な取組(4)環境を保全する機能を発揮するための取組」について(P14)

意見等なし

- 「3 これまでの主な取組(5)農作業体験・学習・交流の場を提供する機能を発揮するための取組」について(P14)

意見等なし

- 「3 これまでの主な取組(6)農業に対する理解醸成機能を発揮するための取組」について(P14)

意見等なし

- 「4 藤沢市の農業の課題(1)農業者の高齢化と担い手不足」について(P15)

【齋藤委員】

表3-6販売農家戸数と農業就業者数を並列に記載して欲しい。

- 「4 藤沢市の農業の課題(2)農業経営の安定化の推進」について(P15)

【齋藤委員】

この部分は重要であり、具体的に書くべき。安定的な農業経営の維持に必要な取り組みに対する支援はどのようなものがありますか？

- 「4 藤沢市の農業の課題(3)農地の保全及び生産基盤施設の機能の確保」について(P15)

【齋藤委員】

農業用道路や用排水路等の生活基盤施設の機能が確保されるように、保全管理や整備が必要ですが、毎年農業予算は削減されており、厳しいのでは

- 「4 藤沢市の農業の課題（4）地産地消の推進」について（P 15）

【齋藤委員】

地産地消を推進するには直販所です。3つ目のわいわい市も検討課題かと思いますが

- 「4 藤沢市の農業の課題（5）都市農業に対する理解の醸成」について（P 16）

意見等なし

- 「4 藤沢市の農業の課題（6）環境保全に配慮した農業の推進」について（P 16）

意見等なし

#### 第4章 新たな藤沢市の農業の将来像と基本方針

- 「1 藤沢市の農業の将来像」について（P 17）

意見等なし

- 「2 基本方針」について（P 17）

【須田委員】

基本方針5 都市農業の多面的機能の活用

→P18 多目的機能 統一して下さい。

- 「3 体系図」について（P 18）

意見等なし

- 「4 目標値と主な取組」について

#### 基本方針1 農業者及び担い手の育成・確保の推進（P 19）

【齋藤委員】

相変わらず新規就農者に対する支援や育成制度が増えており、農業次世代人材投資資金、また有機農業に対する支援も検討されているようです。本来あるべきは農業後継者を支援・育成すべきですがたとえできてもハードルが高く現状では“絵に描いた餅”でしかありません。先日も農水省から後継者のチャレンジを応援します農家後継者に上限100万円の補助金が出るという発表がありました。しかし、対象者のハードルが高く、またこの予算は国が50万円、市が50万円で藤沢市では予算計上がなくできないということでした。

（2）農業後継者（農家後継者）に対する支援・育成に対して2行だけの

表現でこのような漠然とした支援内容では農業者からますます不満が増えるばかりで具体的な内容表現が必要ではないかと思います。

**【湯澤委員】**

トップ経営体の育成に係る支援とは？

**【寺師委員】**

20年前、30年前と比較して貧困層の増えている現代では、初期投資にかかる負担が若年層の就農をためらわせる一因になっている。成功している新規就農者は、早期、あるいは最初から大面積に移行し、安定的な収入を確立していることが多い。大型機械、施設等に使えるまとまった金額の補助があると就農しやすく借金もなく、農地も集積しやすく、安定しやすいのではないかと。そのような見通しがつくと、リスクを取りたがらない今時の若年層が参入しやすいのではないかと思う。

また、親元就農者は、新規就農者にあるような金的、物的、人的サポートや有用情報が受け取り難い状況にある。勿論、基盤があり発展が見込まれている就農者もいるが、必ずしもそうとは言えない場合もあり、状況は様々である。次世代を掘り起こすには新規、親元を区別せず、全般的なサポートがある方がよいのではないかと思う。

○「4 目標値と主な取組」について

**基本方針2 農業経営の安定化に向けた取組の推進 (P 2 1)**

意見等なし

○「4 目標値と主な取組」について

**基本方針3 農地保全と農業生産基盤整備の推進 (P 2 2)**

**【須田委員】**

目標値の設定ですが、畑の方はどうなっているのでしょうか。

○「4 目標値と主な取組」について

**基本方針4 農産物の安定供給と消費拡大に向けた地産地消の推進 (P 2 3)**

**【齋藤委員】**

少子化で毎年子供が減少し、小中高校の統廃合が進む懸念があります。また、食の多様化で地元産農産物供給に無理が出てきそうです。毎年1%増やすことが本当にできるのでしょうか。

スーパーや量販店などでは生鮮食品の販売にかなり力を入れています。卸売市場法が改正され農家との直接取引が増加し、また、国の方でも人・農地プランにより農地の集積、集約を推し進めており、それにより農産物の主産地といわれる地方から大量に農産物が供給されることは確実です。農産物の安定供給と消費拡大に向けての対策が地産地消の推進、学校給食農産物の推進、6次産業化で持続可能な本市の農業発展では中身が薄いのではないのでしょうか。

インターネット上での農産物販売システム、ラクーザのようなインター

ネット上の市場が充実してくるとますます販売力強弱が市場原理に晒されてきます。また、食べチョクやポケットマルシェ等ネット上での直販アプリもかなりありますが、どこまで農家が参入できるのか今後の課題ではないでしょうか。

また、販売促進には農商工などの他産業との連携が必要ではないでしょうか。合わせて情報通信技術の活用による新たな農業経営の確立も必要ではないでしょうか。

○「4 目標値と主な取組」について

**基本方針5 都市農業の多面的機能の活用 (P 24)**

**【湯澤委員】**

防災協力農地のうち、生産緑地が占める割合は？

○「4 目標値と主な取組」について

**基本方針6 農業に関する環境施策の推進 (P 25)**

**【和田(早)委員】**

私は打戻で養豚に携わっております。年々温暖化で夏の飼育は大変です。特に母豚が暑さのために熱中症になったり、分娩難になったりと苦勞しております。送風機ははいっておりますが、もっと扇風機を使用したいので補助があると助かります。

第5章 計画推進のために (P 26)

○「1 関係機関等との連携」について

意見等なし

○「2 計画の進行管理」について

意見等なし

○その他

全体を通してご意見がございましたら、ご記入ください。

**【齋藤委員】**

農業を発展させていくにはやはり後継者です。後継者不足が続く限り農業を取り巻く環境は改善されません。なぜ後継者不足なのかはほとんどの方は理解しています。仕事がきつく収入も不安定、けがや事故の不安、退職金もなく、年金も国民年金では将来生活ができない。国はこの問題解決に新規就農者に期待しているようで、農業次世代人材投資事業を改め初期投資を最大1000万円支援する制度を2022年度から開始するようです。これには市町村と折半のようですが、経営継承・発展等支援事業50万

円の負担ができないのに、この制度は藤沢市では財源がなく到底不可能であると思います。

都市農業の有利性を生かして収入を増やす方法を模索するとともに 6 次産業化を含め他に収入を求めることも必要ではないでしょうか。

**【和田（早）委員】**

持続可能な農業の実現、そして豊かで暮らしやすい地域社会の実現のために何かできることをみな様と考えていきたいと思います。(何より農家の方々の安定した収入、担い手の方々の増加など)

**【寺師委員】**

現在のほとんどの事業にGAPを取得することが条件となっているが、こと湘南地域には直売農家が多く、GAPを取得することによるメリットがほぼ無い現状では事業に申請できる農家数は少ない。

GAP取得の指導及び金銭的補助がより一層必要ではあるが、条件が緩和されることが望ましいと思う。

以 上